# V　サバ州の一般概況及び漁業の概況

## 1 サバ州の一般概況

### 1）一般事情

#### (1) 位　置

サバ州は，ボルネオ島の北部全域を占め，北緯４度から７度，東経１１５度から119度の間に位置しており，西岸は南シナ海，東岸はスルー海及びセレベス海に，南部はインドネシア領カリマンタンと国境を接している。

州都は，コタ・キナバル（１９６７年１２月２９日以降，ジェッセルトンから改称）である。中国名では，亜庇（あび）と称する。

#### (2) 面　積

面積は，２９,３８８平方マイル（７６,１１５平方キロ）で，北海道よりやや小さい。

#### (3) 気　候

気候は，熱帯性である。通常，１０月下旬ないし１１月上旬から北東モンスーン季に入り，３月頃に終る。次いで，５月頃南西モンスーン季に入り，８月頃終る。年間雨量は，地域によって2,５００ミリないし6,５００ミリと大きな差がある。西海岸では南西モンスーン季が雨季となるが，東海岸では北東モンスーン季に雨量が多い。台風帯はサバ州の北方を通過しているため，台風の影響はほとんどない。気温は，海岸地区では早朝摂氏２３度ないし３１度であるが，日中の最高気温は３４度前後となり，夜間は２２度前後まで下がることもある。

#### (4) 人　口

人口は，１９７５年の調査によると，次の通りである。

| | | |
|---|---|---|
| カダザン族 | ２０７,６５０ | （２７.８％） |
| 中国系人 | １６０,３２０ | （２１.５％） |
| その他の原住民 | ２７１,２００ | （３６.２％） |
| （バジャウ，ムルート，他） | | |
| マレイ人 | ２０,５６９ | （　２.８％） |
| その他 | ８７,３１０ | （１１.７％） |
| 合計 | ７４７,０４９ | （１００.０％） |

但し，第４次長期国家計画によれば，１９８０年のサバ総人口は1,０９７,８００人となっている。

#### (5) 略　史

サバ州は，ボルネオ島の北部に位置するため，かつては北ボルネオと呼ばれ，ブルネイのサルタンが支配していた。その一部は，スルーのサルタンに割譲されたこともあったが，迂余曲折を経て，結局，英国の北ボルネオ会社（The British North Born-

eo Company ）の領有するところとなった。同社は，１８８１年に英国政府から特許を与えられたが，ブルネイの領土をめぐってサラワクと対立したことなどもあったため，英国政府は，１８８８年には，ブルネイ，サラワク，北ボルネオの各地域を保護領とした。以来，北ボルネオ特許会社による統治が続いたが，太平洋戦争の勃発に伴い同社は整理された。戦後，英国政府はこの地域に軍政をしいたが，１９４６年7月１５日，軍政を終了し直轄植民地とした。

１９６１年5月２６日，ラーマン・マラヤ連邦首相（当時）は，北ボルネオ，サラワク及びシンガポールの各地域を加えて，マレイシア連邦を結成するという構想を発表した。このラーマンの構想は，種々の波紋を生じたが，独立を要求していた北ボルネオはこれに参加することになり，１９６３年８月３１日（法的には，同年９月１６日），80年以上にわたった英国の絆から脱して独立し，名称をサバ（ＳＡＢＡＨ）と改め，マレイシアを構成する１４州（その後，１９６５年8月9日，シンガポールがマレイシアから離脱，独立したため，現在は１３州）の１州となった。

サバ州政府は，上記，１８８１年サバ州がブルネイより分離後本年（１９８１年）で１００周年目に当ることを契機として，記念開発事業の促進を計っている。

(6) 機　構

政　体

サバ州は，国王（Yang di-Pertuan Agong）を元首とする立憲君主制のマレイシア（１３州）の１州である。

サバ州の州長（Head of State）は，Yang Dipertua Negeri と称され，マレイシア国王がサバ州首席大臣と協議の上，任命する。任期は４年である。

サバ州には，サラワク，ペナンの２州と同様に，世襲の藩王（Sultan）はいない。

(7) 連邦とサバ州との関係

マレイシア憲法においては，連邦と各州の権限がそれぞれ規定されており，連邦と州との関係として，州の立法権，財政上の負担，州有地，開発等について規定されている。

しかし，サバ州は，マレイシア加入協議の際，マレイシア参加の条件として主張した２０項目にわたる特別の保障規定（Special Safeguards）が認められ，半島マレイシアの１１州に比して強い権限を与えられており，連邦とサバ州との関係上，重要なものである。

保障規定とは，宗教，言語，憲法，連邦，連邦の名称，移民，脱退，サバ人化，英国人職員，市民権，関税，財政，原住民，州政府，過渡期間，教育，憲法上の保障規定，連邦議会における代表，州長の呼称，州の名称，土地，森林等の２０項目にわたるものである。

ただし，この保障規定は，マレイシア結成後１０年を期して再検討されることとなっている。

(8) 言　語

言語は，主としてマレイ語，英語，カダザン語，中国語が使用されている。マレイ語は，憲法（第１５２条）により，国語と定められている。英語は，マレイシア連邦成立（１９６３年９月）後１０年間は，公用語としての地位を有していたが，サバ州政府は，１９７３年９月２５日に，マレイ語を公用語に指定した。１９７０年１月以降は，小学校では１年生から外国語としての英語，中国語以外の授業は，すべてマレイ語で行われている。従って，英語は英領時代の名残りとなったが，都市部ではかなり通用する。勿論，日常生活においては，各人種のコミュニティーは，それぞれの言語を用いているが，公的な言語は，マレイ語１本に統一するということが，根流となっている。

## 2　経済・貿易事情

(1) 東マレイシア２州（サバ・サラワク）の経済指標

| | サバ州 | サラワク州 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|
| 1. 面積〔単位：平方キロ〕 | 76,115 | 12,493 | 半島マレイシア | 132,096 |
| 2. 人口（７９年）〔単位：１００万人〕 | 0.98 | 1.22 | 〃 | 11.05 |
| 3. ＧＤＰ（７８年）〔７０年価格，単位：１００万Ｍドル〕 | 1,811 | 1,539 | 全マレイシア | 22,284 |
| 4. １人当り年間所得（７８年）〔７０年価格，単位：Ｍドル〕 | 2,198 | 1,273 | 〃 | 1,676 |
| 5. １人当り年間所得の年平均実質成長率（７６～７８年）〔％〕 | 11.7 | 4.3 | 〃 | 5.9 |
| 6. 労働力　年平均増加率（７６～７８年）〔％〕 | 2.6 | 2.8 | 半島マレイシア | 3.6 |
| 7. 小学生就学率（７８年）〔％〕 | 76.0 | 80.3 | セランゴール州 | 98.7 |
| 8. 1,000人当りの医者数（７８年）〔人〕 | 0.13 | 0.13 | 〃 | 0.56 |
| 9. 公共開発支出（第３次５カ年計画76～80年） | | | | |
| ① 電　力〔単位：100万Ｍドル〕 | 336.2 | 218.0 | 半島マレイシア | 2,121.2 |
| ② 水　道〔　〃　〕 | 112.3 | 100.4 | 〃 | 656.5 |
| ③ 道　路〔　〃　〕 | 456.0 | 289.4 | 〃 | 2,344.4 |
| ④ 港湾等〔　〃　〕 | 86.6 | 276.8 | 〃 | 618.9 |
| ⑤ 空港等〔　〃　〕 | 109.3 | 72.5 | 〃 | 264.9 |
| ⑥ 通　信〔　〃　〕 | 101.1 | 125.3 | 〃 | 1,773.6 |

(2) 概　況

サバ州は面積７６,１１５平方キロ，マレイシア連邦第２の大きな州で，人口９８万人（７９年推計増加率は年3.1％）である。７０年価格による１人当たり年間所得は，７８年で2,１９８M$と全国平均の1,６７６M$を大きく上回り，セランゴール州の3,０８３M$に次いで連邦１３州中２番目に高い（ちなみに最低のケランタン州は６３０Mドル）。マレイシア自体は一次産品に大きく依存しているが，サバ州はさらにモノカルチャー的色彩が強く，７９年におけるサバ州の年間予算歳入が６５％と木材に大きく依存している。

州政府は投資を歓迎する業種として，形態別に資源活用型，農業関連型，輸出志向型，労働集約型，技術志向型の５つのタイプをあげているが，最近では，電気・電子など輸出志向型に非常に積極的である。これらの業種に関し，さらに具体的な投資優先業種として，サバ州の工業開発局があげたものを列挙すると次のようになる。

①食品工業（果物加工，果物・魚肉類缶詰等），②農産物の栽培と加工（パームオイル，ココア，コーヒー，カシューナッツ等），③河川魚の養殖と加工，④酪農，⑤ココナッツの一貫総合加工，⑥農産物の廃物利用と加工，⑦木材加工，⑧ゴム加工，⑨農機具製造，⑩機械・機械部品製造，⑪輸送用機器の組み立て，⑫製鉄，⑬輸出用の電気，電子製品および部品の製造，⑭光学機器，時計等の組み立て，⑮窯業（ガラス，陶磁器等）。

上記の業種をみると，農産物加工から製鉄に至るまで非常に幅が広い。製鉄については，現在ラブアン（Labuan）島における直接還元鉄プロジェクトが進められている。ラブアン島は，コタキナバルからジェット機で２０～２５分の距離，８３平方キロの島である。同島は自由港を持ち，ダトウク・ハリム首席大臣の出身地でもある。同大臣はラブアン島を「ミニ・シンガポール」にしたいという意向をもっているが，同島の開発を支える強味の１つがエネルギー源としての天然ガスである。天然ガスは島の南西８０キロのスマラン（Semarang），北西１３０キロのエルブ・ウエスト（Erb West）の地域で１９８３年より生産開始される予定である。

(3) 輸　出

サバ州の輸出は圧倒的に原木主導型である。輸出に占める原木の割合は４９.６％と半分に至っている。これに原油（３１.２％）を加えると，２大品目のみで８０.８％，５大品目（原木，原油，パームオイル，銅，ゴム）では９０.３％に達する。７９年の輸出を相手国別にみると，日本が全体の６１％ときわめて高いシェアを持っている。サバ州の原木総輸出のうち日本向けが８６％を占め，原木についてはわが国への依存度がきわめて高い。対日輸出では，原木（対日輸出全体の６９.７％），原油（同２２.３％），銅（同5.３％）が３大品目で，これらの３品目で９７.３％を占める。

(4) 輸　入

７９年のサバ州の輸入を見ると，機械類および輸送機器類が総輸入の３８.０％（７８年４０.３％）を占めている。ついで原料別製品が１８.０％，食料品および動物１３.９％，食用に適しない原材料9.0％，化学工業製品6.7％，雑製品6.3％，飲料およびたばこ5.7％，その他2.4％の順となっている。

これを相手国別にみると，日本がやはり１位で２２.２％を占める。次いでシンガポール（１２.４％），米国（１１.０％）となり，２，３位の順位が輸出と逆になる。ＡＳＥＡＮ諸国からの輸入は全体で１５.６％であるが，シンガポールを除くと，インドネシア0.3％，フィリピン1.3％，タイ1.5％と輸出と同様非常にわずかである。主要品目別でみると，米の輸入先は中国とタイがほとんどである。ブルドーザー等の建設・搬出機械は日本が圧倒的（シエア７１.５％）で，これに米国（２５.５％）を加えると２カ国で９７％の占有率となる。

## 3. サバ州漁業の概況

### 1) 漁場・資源

サバ州の海岸線は約1,000キロメートルである。底質はおおむね砂泥であり，トロール漁業に適しているが，岩，珊瑚礁もあって，不適当な地域もある。西岸から北東岸沖合にかけて距岸１５～２０マイル，水深５０メートル以深に大陸棚がある。

ブルネイ湾からサバ州北端にかけて沖合水深１８０メートルの傾斜岩礁があって，たて縄の好漁場であると報告されている。対象魚種はふえだい類，おおひめ，はた類である。

サバ州の南東岸では，岸深に大陸棚が存在している。この海域は岩礁漁業や回遊魚漁業の好漁場となっている。しかし，フィリピンとの境界が迫っており，近年，海賊船が横行し，漁業の発展が阻害されている。

また，サンダカン周辺沿岸海域は，すでにトロール漁業の漁場として十分開発されており，新漁場の開拓が望まれている。

なお南シナ海に面する西海岸域は沖合・遠洋漁業の発展する余地はある。サバ州漁業局は漁区を，コタキナバルを中心とする西海岸，サンダカンを中心とする東海岸，タワウを中心とする東南海岸に区分し，他漁区への入漁は認めていない。

漁獲可能資源量は，ＦＡＯ南シナ海漁業開発計画による資料を基礎に推定すると

(1) サバ州西海岸海域（南シナ海）

浮魚　0.６５トン／$Km^2$×（１０,７８０$Km^2$＋２７,７２０$Km^2$）
※　※※

＝２５,０２５トン

底魚　1.0 0 トン／Km² ×（1 0,7 8 0 Km² ＋ 2 7,7 2 0 Km²）

＝3 8,5 0 0 トン

計 6 3,5 2 5 トン

(2)　サバ州東海岸域（スルー，スンダ海）

浮魚　0.5 トン／Km² ×（1 8,0 1 8 Km² ＋ 2,5 5 6 Km²）
※　※※

底魚　2.0 トン／Km² × 1 8,0 1 8 Km² ＋ 1 トン／Km² × 2,5 5 6

＝3 8,5 9 2 トン

計 4 8,8 7 9 トン

(3)　サバ州海域　(1)＋(2)　合　計　1 1 2,4 0 4 トン

※　水深　5 0 m 以浅海域

※※　水深　5 0 m 以深　2 0 0 浬専管水域内海域

1 9 7 9 年度のサバ全州の漁獲量は，約 4.2 万トンで，その漁獲の大半は 5 0 m 以浅の沿岸海域で漁獲されている。従って前述の資源量から 5 0 m 以浅の資源量は 6.4 万トンと推定され，既に資源量の 6 5 ％を漁獲していることとなる。

一方沖合 5 0 m 以深の海域の資源量 4.8 5 万トンは未開発といえる。

2）漁船，漁具

サバ州の漁船数はサラワク州とことなり，1 9 7 0 年代はわずかな変動にとどまり，1 9 7 7 年には 4,0 8 3 隻と 1 0 年前の 1 9 6 8 年（4,0 8 9 隻）の水準にとどまっている。このなかにあって，動力船（船外機付船を含む）全般的には増加しているという傾向はみられないが大型トロール船は増加している。

漁具の主体は，サラワク州と同様トロールと刺網であって，両漁具による漁獲物は全漁獲量のうちトロール 3 6.6 ％，刺網 1 5.1 ％となっており両漁具により水揚げの過半が占められている。

漁船数及びその推移

| 年 | 船内機漁船 | 船外機漁船 | 無動力船 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 1970 | 1,400 | 2,320 | 300 | 4,020 |
| 1971 | 1,430 | 2,500 | 150 | 4,080 |
| 1972 | 1,470 | 2,495 | 200 | 4,165 |
| 1973 | 1,253 | 2,548 | 497 | 5,298 |
| 1974 | 1,253 | 2,545 | 500 | 4,298 |
| 1975 | 1,131 | 2,705 | 400 | 4,236 |
| 1976 | 1,250 | 2,500 | 300 | 4,050 |
| 1977 | 1,474 | 1,753 | 856 | 4,083 |
| 1978 | 1,758 | 2,077 | 784 | 4,619 |
| 1979 | 2,204 | 2,413 | 930 | 5,547 |

3) 漁業生産

サバ州の漁業生産の増加率をみると，１９６０年代はトロールの導入により高かったが，１９７０年代に入り低下し，最近になって再び伸びが高率となった。１９７９年の海面漁業の漁獲量は４０,２００トンで，これを主要地域別にみると，サンダカン7,０００トン（１7.4％—総漁獲量に対する比率），タワウ5,５００トン（１3.7％），コタキナバル6,０５０トン（１2.9％），センポルナ6,７６０トン（１5.0％）である。漁獲金額でみると，総額は１１９,６５０Ｍドルで，そのうち，甲殻類（えび類が主体）が４１％を占めている。えびの水揚げを地域別にみるとサンダカン3,８３４トン，西海岸８７５トン，タワウ５２９トンで，サンダカン地域が中心となっている。

サンダカンには日本との合弁企業である北ボルネオ水産があり，会社設立当初よりえびトロール船の操業指導，えびの冷凍加工指導等現地漁業の振興に貢献している。同社は製氷，冷蔵，冷凍施設を持ち，漁船に氷を供給し，これらの漁船により水揚されたえびを冷凍し日本へ輸出している。なお，同社はかつては漁船を所有し操業していたが，現在はこれらを処分（一部はインドネシア・カリマンタン海域へ転用）し，漁船を所有していない。

年度別水揚数量及び水揚金額，地域別水揚数量，及び漁業従事者数，魚種別，年間生産高，は次表の通り。

年度別水揚数量及び水揚金額

| 年度別水揚数量 1,000トン | | 年度別水揚金額Mドル1,000 | |
|---|---|---|---|
| 1970 | 27.0 | | 27.7 |
| 1971 | 27.6 | | 32.0 |
| 1972 | 28.0 | | 38.8 |
| 1973 | 32.0 | | 43.0 |
| 1974 | 33.1 | | 46.2 |
| 1975 | 33.5 | | 56.6 |
| 1976 | 31.7 | | 61.6 |
| 1977 | 36.2 | | 86.4 |
| 1978 | 41.6 | | 107.1 |
| 1979 | 41.9 | | 119.6 |

地域別水揚数量及び漁業従事者数

| 地区名 | 専業漁業者数 | 年度別水揚数量 (トン) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 |
| Labuan and Sipitang | 400 | 884 | 1,160 | 900 | 1,200 | 1,300 | 1,560 |
| Beaufort (including Weston, Membakut, Kuala Penyu and Padas) Damit | 800 | 1,422 | 1,677 | 1,300 | 1,700 | 1,750 | 2,000 |
| Papar | 500 | 1,321 | 1,118 | 1,000 | 1,500 | 1,600 | 1,000 |
| Kota Kinabalu | 850 | 2,845 | 2,947 | 2,200 | 4,500 | 5,000 | 6,050 |
| Tuaran | 900 | 1,829 | 1,626 | 1,300 | 1,800 | 1,900 | 2,100 |
| Kota Belud | 350 | 813 | 1,118 | 1,000 | 1,200 | 1,200 | 1,000 |
| Kudat (including Pulau Banggi) | 2,160 | 3,556 | 3,556 | 3,000 | 1,500 | 1,900 | 2,600 |
| Beluran (including Labuk Bay Area) | 700 | 2,540 | 2,235 | 2,300 | 2,500 | 2,600 | 3,500 |
| Sandakan | 3,000 | 8,636 | 8,128 | 8,300 | 8,700 | 8,650 | 7,000 |
| Lahad Datu | 800 | 1,125 | 1,321 | 1,500 | 800 | 1,000 | 1,150 |
| Semporna | 4,000 | 3,759 | 3,963 | 3,700 | 4,000 | 6,500 | 6,760 |
| Tawau | 650 | 3,455 | 3,650 | 4,000 | 5,500 | 5,700 | 5,500 |
| Tenom, Keningau and Kinabatangan | — | 1,016 | 1,016 | 1,200 | 1,300 | 1,500 | 1,680 |
| TOTAL | 15,110 | 33,295 | 33,531 | 31,700 | 36,200 | 41,600 | 41,900 |

## 魚種別年間生産高

| | 水揚数量 1,000トン | | | | | | 水揚金額 M$1,000 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 |
| 1. 淡水魚 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.3 | 1.5 | 1.7 | 2,000 | 2,000 | 2,600 | 2,800 | 3,700 | 4270 | 5,620 |
| 2. ひら，ミルクフイシュ | 1.8 | 1.8 | 0.5 | 0.3 | 0.4 | 1.0 | 900 | 900 | 1,500 | 1,380 | 280 | 380 | 1,000 |
| 3. 平目，カレイ | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 0.1 | 0.5 | 0.4 | 1,200 | 1,200 | 1,600 | 1,760 | 180 | 900 | 760 |
| 4. 赤魚 | 4.6 | 4.8 | 4.5 | 6.3 | 7.3 | 8.2 | 5,100 | 6,040 | 7,900 | 8,150 | 11,780 | 14,000 | 17,910 |
| 5. アジ，ボラ | 3.0 | 3.4 | 3.2 | 7.5 | 6.2 | 7.4 | 4,200 | 4,500 | 6,650 | 6,890 | 17,100 | 15,000 | 18,800 |
| 6. ニシン，イワシ | 3.9 | 3.9 | 3.7 | 1.8 | 1.1 | 1.3 | 1,900 | 1,900 | 2,280 | 2,380 | 1,200 | 800 | 850 |
| 7. カツオ | 0.8 | 0.9 | 0.8 | 1.2 | 1.0 | 2.0 | 360 | 560 | 750 | 730 | 1,100 | 1,000 | 1,500 |
| 8. サバ | 2.1 | 2.2 | 2.0 | 7.4 | 11.0 | 6.5 | 3,200 | 3,360 | 4220 | 4,220 | 15,700 | 23,700 | 17,200 |
| 9. サメ，エイ | 1.9 | 1.8 | 1.7 | 0.7 | 0.5 | 1.7 | 1,080 | 1,140 | 1,300 | 1,350 | 560 | 400 | 1,680 |
| 10. ヒイラギ | 3.0 | 3.3 | 3.0 | 0.4 | 0.6 | 0.4 | 1,120 | 1,350 | 1,730 | 1,730 | 240 | 400 | 400 |
| 11. 雑魚 | 3.0 | 2.9 | 2.6 | 1.5 | 1.2 | 1.2 | 280 | 480 | 700 | 690 | 400 | 300 | 400 |
| 12. 甲殻類 | 5.9 | 5.5 | 5.7 | 6.6 | 8.0 | 8.5 | 20,460 | 21,460 | 24,000 | 28,000 | 32,400 | 42,020 | 49,500 |
| 13. 貝類 | 0.6 | 0.5 | 0.5 | 0.6 | 1.6 | 1.0 | 600 | 720 | 720 | 790 | 950 | 2,600 | 2,230 |
| 14. ナマコ類 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 0.3 | 50 | 50 | 60 | 70 | 80 | 250 | 400 |
| 15. 真珠貝殻サンゴ | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.5 | 0.3 | 500 | 500 | 600 | 660 | 700 | 1,100 | 1,000 |
| 合計 | 33.1 | 33.5 | 31.7 | 36.2 | 41.6 | 41.9 | 42,950 | 46,160 | 56,610 | 61,600 | 86,370 | 107,120 | 119,650 |

エビ年度別，地域別水揚数量　（トン）

| 年　度 | タワウ | サンダカン | 西　海　岸 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 1970 | 71 | 2,609 | 228 | 2,908 |
| 1971 | 145 | 3,583 | 138 | 3,866 |
| 1972 | 245 | 3,010 | 168 | 3,423 |
| 1973 | 514 | 3,119 | 313 | 3,946 |
| 1974 | 558 | 3,261 | 237 | 4,055 |
| 1975 | 431 | 2,890 | 210 | 3,531 |
| 1976 | 720 | 3,435 | 497 | 4,652 |
| 1977 | 731 | 3,526 | 1,242 | 5,499 |
| 1978 | 570 | 3,979 | 991 | 5,540 |
| 1979 | 529 | 3,834 | 1,055 | 5,418 |

漁民の収入は，小売魚価の$\frac{1}{8}$強の手取りで残は魚買付人，仲買人，小売人の手数料で占められ，漁期中は300Mドル／月であるがモンスーン時期は，100～200Mドル／月と低下する。

漁民の組織としては4つの漁業組合が組織されているが，その一つのKONELAYANは全州的組織で種々の施策が講じられ，漁民の訓練機関としては同州で唯一の漁業訓練学校が同組織の下に設置されている。同校の訓練計画は，1年，3ケ月，1ケ月の3コースに分けられ，漁具，漁法，航海，機関，漁業管理，漁業組合等の訓練指導が行われている。漁業行政は，サバ州農漁業開発省の管轄下にある漁業局により行われ，その組織図は次表の通りである。

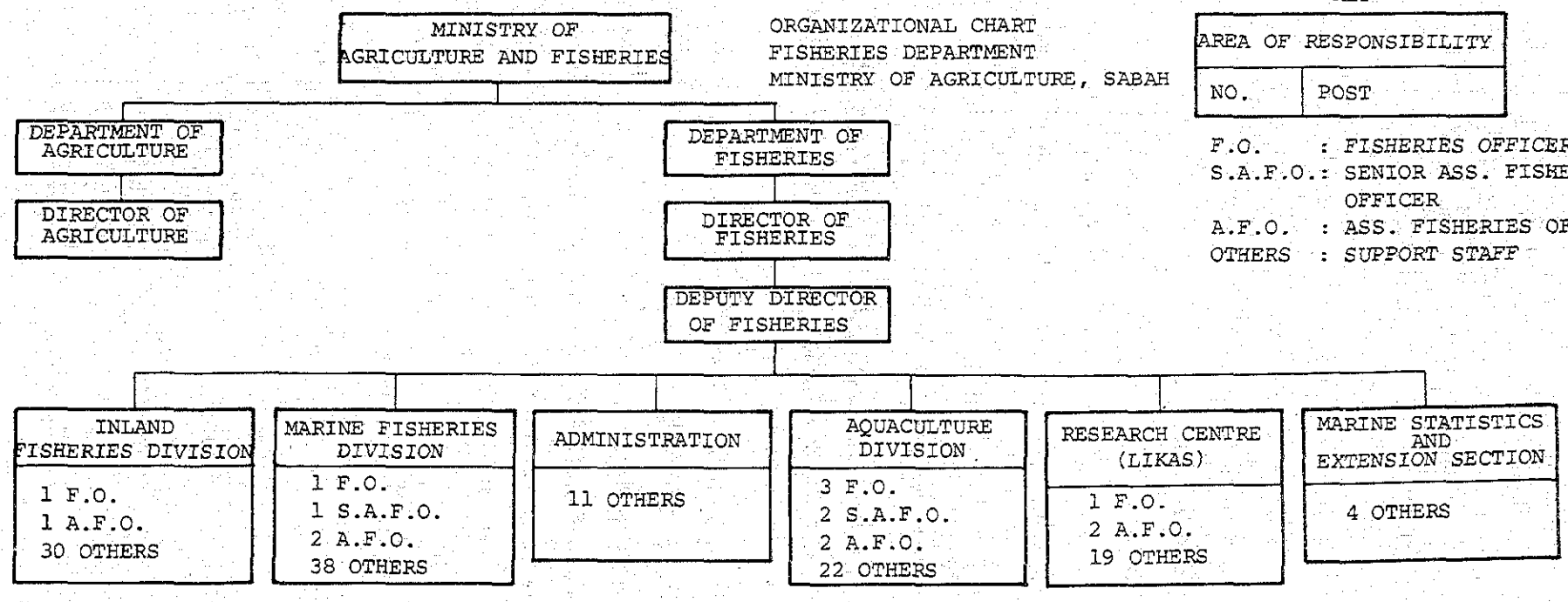
農業省漁業局機構図（１９７９年次）

ORGANIZATIONAL CHART
FISHERIES DEPARTMENT
MINISTRY OF AGRICULTURE, SABAH

KEY

| AREA OF RESPONSIBILITY | |
|---|---|
| NO. | POST |

F.O. : FISHERIES OFFICER
S.A.F.O.: SENIOR ASS. FISHERIES OFFICER
A.F.O. : ASS. FISHERIES OFFICER
OTHERS : SUPPORT STAFF




- Sandakan
- Keningau
- Ranau
- Kota Belud
- Penampang
- Tawau
- Papar
- Beaufort
- Kudat

. West Coast
- Kota Klnabalu
- Kudat
- Kuala Penyu
- Beaufort
- Papar
- Labuan

. East Coast
- Tawau
- Beluran
- Lahad Datu
- Semporna

. Oyster Culture
- Labuan
- Sandakan
- Tawau

. Seaweed
. Milk-Fish Culture

. Marine Food Technology
. Biology
. Fishing Gear

SOURCE: FISHERIES DEPARTMENT, SABAH
DATE : 1 JANUARY 1979

## Ⅵ 収集資料リスト

1. FOURTH MALAYSIA PLAN

2. MID-TERM REVIEW
   OF THE
   THIRD MALAYSIA PLAN
   1976 - 1980

3. ANNUAL REPORT OF THE DEPARTMENT
   OF FISHERIES SABAH 1979

4. ANNUAL FISHERIES STATISTICS 1979
   MINISTRY OF AGRICULTURE MALAYSIA

5. MAP OF SABAH

6. CONSTRUCTION PLAN OF
   TRAINING SCHOOL FOR FISHERIES
   DEP'T. AT PATAU PATAU, LABUAN

JICA